

2020年東京オリンピック・3競技の本会場が千葉市に決定!

レスリング、フェンシング、テコンドーの3競技が千葉市（幕張メッセ）で開催されることに決定致しました。千葉市の未来に極めてインパクトの大きい事案であり、感慨深いものを感じております。

オリンピックを今後のまちづくりの最大の契機とすべきとの視点から、東京招致決定の一ヶ月後に『『オリンピック・パラリンピック』と『千葉市』をつなぐ30の提言』を市長に提出し、その後も幾度となく議会でも取り上げてまいりました。昨年には、千葉市としてプロジェクト推進本部を立ち上げ、この3月には事前キャンプ誘致の取り組みをはじめとする行動計画も策定されたところでありました。本会場になるというまさかの展開は、ある意味でうれしい悲鳴であります。正に千載一遇の機会でもあり、集客観光の分野をはじめ、今後の地方創生にしっかりと結びつけてまいりたいと思います。

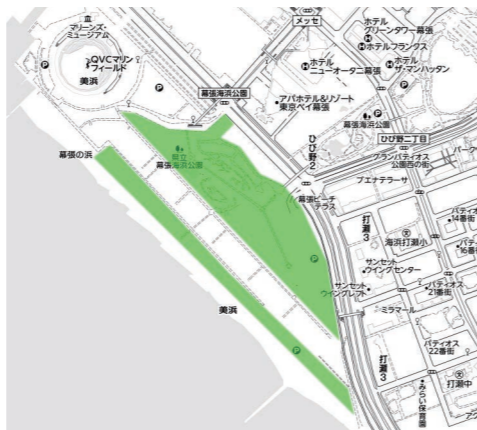


千葉市が本拠地である車椅子バスケットボールチーム・千葉ホークスの練習会場に。パラリンピックも千葉市で!!

サッカー日本代表の公式拠点が千葉市に!?

5月にJFA(日本サッカー協会)から千葉県に対し、幕張海浜公園に「JFAナショナルフットボールセンター」を設置したいとの要望があり、今後千葉市も含め調整が行われることとなりました。

実現をすれば日本で唯一の公式「サッカー日本代表拠点」となります。多くの子どもたちの夢を育む施設としてだけでなく、千葉市の象徴的な施設ともなり得るだけに大きな期待がかかります。千葉の地方創生に向け新たな素材がまた一つ。推移を見守りつつ、着実に市政発展につなげてまいりたいと思います。



去る6月18日(木)、統一選後最初の定例会で一般質問を行いました。質問の様子は、千葉市議会・議会中継システムにて録画中継がご覧になれます。スマホからでもOK!答弁を含め、約60分の内容となっております。ぜひご覧ください!

■アドレスは以下の通り。

www.chiba-city.stream.jfit.co.jp

議員名「酒井伸二」で検索ください!

酒井伸二

検索



市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員

〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14

酒井 伸二

Tel/Fax.043-268-7120

<http://chibashi.com> <http://www.facebook.com/sakai.cc> e-mail:sakai@chibashi.com

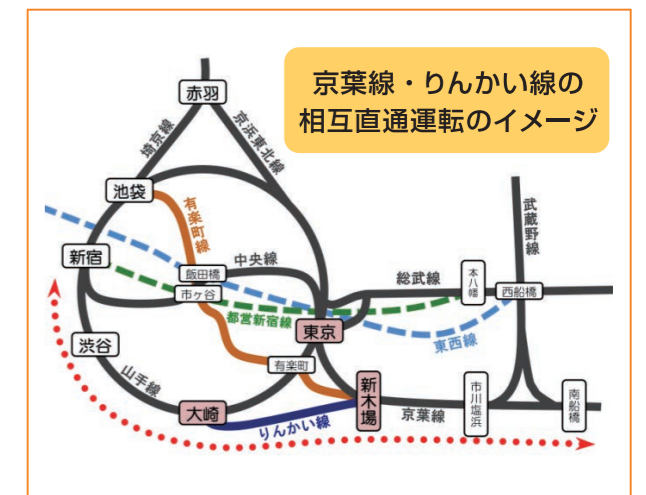


千葉の地方創生へ!

今や国、県、市町村、全ての階層における最大の政治テーマはこの地方創生にあるといっても過言ではないのかもしれませんが。千葉市においても、10年後に2025年問題を抱えていることや、他都市と比較し今後一気に高齢化が進むとされるその特性、更に近年における首都圏からの人口流入の伸び悩みなどを鑑みるに、やはり大きな課題であります。

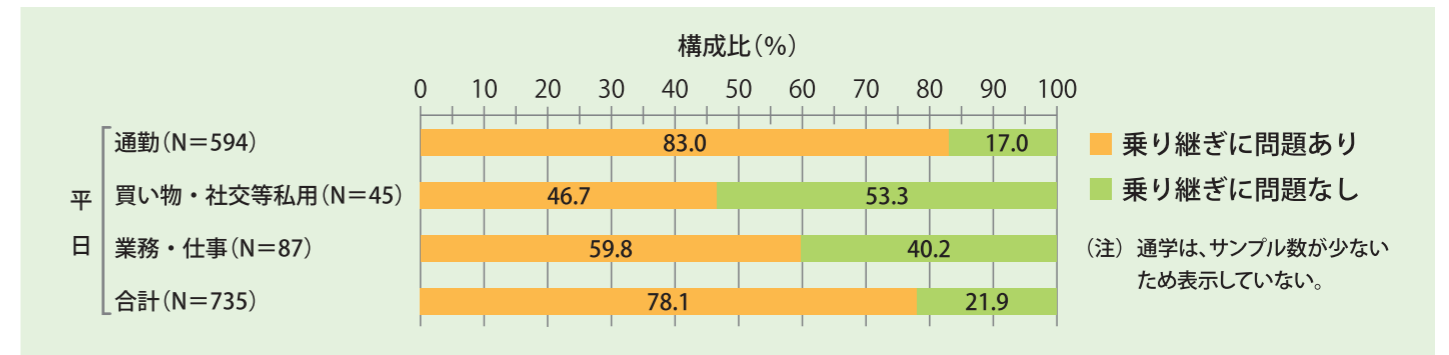
京葉線・りんかい線の相互直通運転に関する利用実態調査結果を公表

本件は、正に新たな人の還流を生む地方創生と真ん中の政策であり、単なる利便性の向上のみならず、まちの更なる活性化への期待が寄せられております。昨年度、本市を含む沿線自治体で構成する「相互直通運転促進に関する協議会」により利用実態調査が実施され、この4月にその結果が公表されました。



【調査結果 / 5つのポイント】

- ① 相互直通運転の運行本数とりんかい線の運賃体系をJR並みにした複数のケースを想定。
- ② 一日あたりの利用者数75,000人の内、乗換の必要がなくなる人は最大で46,000人(61%!)に。
- ③ 一日あたりの利用者は、りんかい線が最大で96,000人、京葉線(蘇我-新木場)が32,000人増加。
- ④ 新木場駅における乗り継ぎ利用者が一日あたり21,000人減少し、駅の混雑緩和につながる。
- ⑤ りんかい線沿線は、豊洲や有明等で大規模な開発プロジェクトが進行中で利用者数は当面増加する。



※京葉線とりんかい線相互乗り継ぎについて、通勤では8割超、買い物・社交等私用や業務・仕事目的でも半数を超える多くの人が問題があると感じている。

【試行運行の実現を】

平成25年第四回定例会において、酒井議員の代表質問に対し「直通運転による効果を検証するため、ホームライナーの試行運行を平成28年度を目途に実施したい」との答弁がありました。今回改めて、「1年後に迫った現在、実現の見込みはあるのか?」進捗と課題、今後の取り組みについて質問を致しました。当局からは、

「ホームライナー運行で使用する特急車両の確保が難しいものの、今後は普通車両を使用しての試行運行の可能性について、引き続き鉄道事業者と協議していく。」との答弁がありました。本年は経済効果に関する調査も行われる予定となっており、引き続き実現に向け全力を尽くしてまいります!

千葉の中小企業・小規模事業者を応援！

5月に静岡県富士市の産業支援センター・通称f-Biz（エフビズ）に行っていました。中小企業・小規模事業者のための経営相談所「よろず支援拠点」の国モデルとなっている施設です。

千葉市のビジネス支援センターとほぼ同時期に開設されており、売上向上を重点的にサポートするビジネスコンサルティングを展開しております。地域の事業者から寄せられる相談件数はもとより、実際の売上拡大や創業の実現において驚異的な数値をたたき出しております。



f-Bizの小出センター長と。(左から酒井、小出氏、森山議員)

千葉市ビジネス支援センター		VS	エフビズ	
H26相談件数	1,868件		3,886件	
H26起業相談	213件		670件	
創業実績	8年で41件		ここ1年で41件	

(参考：千葉市人口は富士市の約3.7倍、事業所数は約20倍)

支援の中身は(決算書などは見ず)埋もれた事業の強み、売りを発見し、気付かせ、生かすというシンプルなもの、言い放しではなく成功を目指して一緒に戦略を練り挑戦するというものであります。

単純比較はできませんが、支援センターそのものの予算規模も千葉市の方が約2.6倍となっており、改革の必要性を感じました。



f-Bizの事務所には成功事例の新聞記事が所狭しと掲示されている。

千葉市ビジネス支援センターの専門家相談は、こちらまで！ **043-201-9505/9506**

子どもルームの待機児童解消を！

千葉市では、就学前児童の保育については2年連続の待機児童ゼロを達成したものの、学童保育の分野においては年々待機児童が増加傾向にあります。(右図参照)

また、統一選の中でも、宮崎小をはじめとする蘇我地区からは早期の改善を求める声が多く聞かれました。

事態の打開には、ルームそのものの増設や移転時の施設規模の拡大を進める以外にありませんが、放課後子ども教室の拡充や、地域の自治会関係者や地主さんなどにも相談を持ち掛けるなど、これまでとは異なるアプローチの検討、執念をもった取り組みを求めました。

子どもルーム	待機児童の見込み				
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
中央区	126	144	76	57	106
花見川区	-114	-121	-130	-167	-157
稲毛区	-4	12	-14	-35	-52
若葉区	148	134	100	92	128
緑区	134	111	71	14	94
美浜区	-20	-142	-217	-324	-367
全市	270	138	-114	-363	-248

指定廃棄物の長期管理施設について

千葉県内で検出された指定廃棄物(8,000～100,000ベクレル/kgの放射性物質を含む廃棄物)の長期管理施設について、環境省は中央区蘇我にある東京電力の敷地をその候補地として選定しました。

現在、県内にはおよそ3,700t(トン)の指定廃棄物があり、その多くは東葛エリア(柏、松戸、流山、我孫子等)に集まっております。ちなみに千葉市には、約7.7t(新港清掃工場内に)あります。

およそ5,000カ所の候補地から選定されたとされておりますが、その選定過程には納得できない部分があり、とても選定結果を受け入れることは出来ないと考えております。

環境省から通知のあった4月24日以降、これまで(6月末まで)の経過は以下の通りです。

- 4月24日 環境省より市、県に対し選定結果を通知
- 5月20日 環境省より議会への説明・質疑を実施(右写真)
- 6月2日 議会として環境省に対し、二回目の質疑を実施 ※酒井議員が質疑を実施。以下で音声(録音)を視聴できます。
http://www.city.chiba.jp/shigikai/hokoku2706_gicho.html
- 6月9日 議会として環境省に「再協議を求める決議」を提出
- 6月10日 市長が環境省に「再協議の申し入れ」を提出
- 6月8日～23日 市議会定例会
※18日に酒井議員が一般質問で本件を取り上げました。以下で録画中継をご覧ください。
<http://www.chiba-city.stream.jfit.co.jp/>

現時点(6月末時点)での最新状況としては、市及び市議会ともに、環境省に対して受け入れ困難を表明し再協議を求めているところであります。なお、住民説明会については7月以降、様々な単位で実施されます。

県、市は主体性を！

候補地の選定手順や選定手法、「県内1カ所への集約処理とする」ことなど、既に過去2年半の中で計4回に渡る千葉県市町村会議によって議論されてきた経緯があります。県及び市行政には、その一連の議論に加わってきたことを踏まえ、より主体性を持ち、どこまでも住民目線で事に当たることを求めます。

千葉県市町村会議の議論は十分だったのか？

各県の市町村会議では候補地の選定を進めるにあたっての条件設定として、「地域特性として配慮すべき事項」について協議されております。例えば宮城県の場合、年間50万人以上の観光客が訪れる施設を持つ行政区は対象外とすることが盛り込まれました。しかしながら、千葉県では観光立県を掲げるわりにそうした議論は行われなかったとのことでありました。それ自体、十分な議論がなされなかった証左のように思えます。(ちなみに千葉市では、幕張メッセや千葉神社などに年間1,500万人以上の観光客が訪れております。)

千葉県の場合は、排出自治体での継続保管が最も現実的！

私自身、千葉市の新港清掃工場や柏市を視察して参りましたが、思った以上に厳重に管理されており、線量も然程の数値を示していなかったことから「果たしてこれらを無理に動かす必要があるのか？」というのが率直な感想でありました。千葉県の指定廃棄物は、他県と比較しても少数の自治体での排出に留まっていることから、排出自治体での継続保管が最も現実的のように思えます。なぜ敢えて調整が難しい方向に進めようとするのか？理解に苦しみます。

候補地選定の過程

